

# Act

## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示



環境経営方針に沿って真面目な取り組みができた。一方、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛が発表され、満足な営業活動が出来ない一年であった。特に大型案件は、お客様の市場を見る目が厳しくなり、延期・中止案件があるなど厳しい経営環境であった。

いまだ終わりが見えない状況であるが、DX（デジタルトランスフォーメーション）システムを構築し、省エネ・CO2削減、廃棄物の再利用・再資源化など顧客の課題解決のための取り組みを継続し、持続可能な循環型社会に貢献しなければならない。

各種数値は、受注の状況により結果が左右される部分が大きく未達成箇所もあるが、次期は目標を達成できるよう知恵と工夫で改善活動を進める。

また、町水や大阪営業所の電気使用量など一年を通して推移を見てきたが、目標値の見直しが必要と判断する。やっても達成できないような数値ではなく、頑張れば達成できるようなところに目標を設定し、改善活動を継続し前進しなければならない。

全てにおいて無駄を防ぎ、ニューノーマル時代に業務に適合し、変化に対応していく。  
2021年よりSDGsに取り組みます！

2021年2月12日  
株式会社大川原製作所  
代表取締役社長 大川原行雄